

令和元年度

事業報告書

一般財団法人

東京都高等学校野球連盟

1 事業の内容

(1) 高等学校野球の普及、振興、指導および監督

①年度内に予定していた理事会は計画通り6回を実施し、ほぼ理事会実施前に常務理事会を開催。更に、各部会を開き、審議・検討を行い、健全な高校野球育成の発展に努めた。

②責任教師・監督会にて、野球要項を再度熟読し、中学生の体験入部の取扱いを確認した。また、中体連とも連携を取り、開会式での始球式も実施した。

③毎年の最重要課題であるフェアプレーの徹底を指導した。具体的には、加盟校の指導者、並びに部員の偵察行為を全面的に禁止した。(ビデオ撮影など)不正があった場合は、責任教師に厳しく指導した。また、バックネット裏付近での試合観戦も合わせて禁止した。学校関係者より申請があった場合撮影許可のリボンを貸与した。ほぼ周知徹底はできつつあるが、次年度も継続的にフェアプレーの精神を伝えたい。

④不祥事件の根絶に向け、責任教師、監督会議の席上で、加盟校への指導を行ってきた。結果は、本年度は49件(日本高野連32件、東京都高野連止まり17件)の不祥事件があり、根気よく加盟校への危機管理の認識を伝達しなければならない。不祥事件に関しては、減少傾向にあるが、根気強く、体罰のない健全な指導を今一度、周知徹底する必要がある。

⑤ホームページは、コンテンツの充実を図り、現在では定着している速報システムなどにより、スピード感を持って情報を提供した。また、様々な連盟関連の連絡事項がホームページより確認する傾向にあり、ユーザーのニーズに合ったサービスを提供できているように感じる。

⑥責任教師会議においては4校を除く269校が参加。様々な懸案事項を詳細に説明し、理解を求めた。特に本年度は野球振興事業や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時における概略などの報告を行った。

(1) 不祥事件の根絶に向けて指導した。特にいじめや指導者の体罰に関しては重点的に説明した。高校野球の理念を今一度再認識させるとともに健全な野球部の運営・管理を指示した。

(2) 高校野球200年構想の一環である野球人口拡大を目指し、子供向けTボール教室の実施を加盟校の協力を得て、積極的に進めていく主旨の説明をした。

(3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックを一年後に控え、第102回全国高等学校野球選手権大会における野球場使用制限や東西東京大会の準決勝以降の日程についても説明を行った。具体的には、神宮球場の使用制限に伴い8月1日(土)～8月3日(月)の間を東京ドームにて開催することを発表した。

また、神宮・神宮第二・大田スタジアムの3球場に使用制限があるため第102回大会では、東西の枠組みにとらわれない形でグラウンドを使用していくことを説明し理解を求めた。

2020年は、東京オリンピック・パラリンピックという大イベントがあり、東

京高野連においても難しい舵取りを強いられることが予想される。あらゆる事態に対応できる柔軟な思考とスピード感をもった行動にて各事業の遂行にあたり、各事業が恙なく執り行えるように努めたい。

⑦本年度は岩間整形外科 理事長 岩間 徹 氏、東京慈恵医科大学整形外科 教授 スポーツウェルネスクリニック診療部長 舟崎 裕記 氏、日本大学付属病院整形外科 洞口 敬 氏の3名の医師をお迎えして、高校野球指導者に「スポーツ傷害」についての講義を頂いた。本年度は、高校野球における投手の球数制限についての議論が大きな社会問題となり、有識者を交えた検討委員会も開かれて3年間限定の中でガイドラインがあげられた。このような高校野球での球数制限を含めて、「スポーツ傷害」や肘・肩のコンディショニング、ゲーム後のケア方法など多岐にわたる講義を医師の鋭い視点からいただいた。明解な語り口と説得力のある発言が聴衆を魅了し、大盛況であった。

⑧加盟校が270を超え、審判員の確保には本年度も非常に苦労した。若い世代の審判員の育成が急務である。本年度も春季大会一次予選において、学生審判の導入を実施。しかし、加盟校からは、公式戦の場において一回の講習を受講したものが試合にジャッジをすることに疑問もあったが、次世代の審判員育成には「生きた場面の提供が必要である」という審判部からの強い要望もあり、春季大会一次予選の塁審として起用した。しかし、この学生時代に審判講習会を経験し、将来的に審判員を目指す契機になることを期待している。登録審判員も各大会の度に、審判講習会を実施し、技術の向上に努めた。残念ながらいくつかのミスジャッジもあり、さらなる技術向上と的確な判断力のある人材育成が必要だと実感している。連盟としても、審判員の増員に向け、推薦書の依頼を加盟校に呼びかけた。今後審判部と連携を密にして対策を検討したい。

⑨本年度、当連盟では、野球振興部を新たに設立した。野球人口減少に歯止めをかける取り組みを具体的に提案し、Tボール教室の実施に踏み切った。加盟校の協力を得て45会場で実施し、未就学児から小学校低学年をターゲットに開催した。楽しそうな子供たちの表情や親の満足感などから勘案しても継続的かつ積極的な事業拡大によって微力ではあるが、野球人口増加への切り口となるような感はある。引き続きトライしたい事業である。

⑩一般財団法人化に伴い、還元事業として、加盟校へは秋季大会抽選時に背番号を配布。更に秋季大会一次予選時に硬式試合球3ダース・フェイスガード4つ・ヘッドギア3つを加盟校に配布した。

(2) 高等学校野球大会ならびに試合の開催及び協力

①2019年度春季東京都高等学校野球大会

一次予選は、24の会場に分かれ、178チーム（連合チームがあるため）が参加。3月16日（土）～22日（金）で実施。48の代表校が、4月1日（月）からの本大会に出場。本大会は4月1日（月）～14日間。決勝は28日（日）で、96校が神宮第二球場を含め8球場を使用し、開催。優勝校は東海大学菅

生高等学校（25年ぶり2回目）。準優勝は国士舘高等学校。

②第101回全国高等学校野球選手権大会東西東京大会

朝日新聞東京本社と共催で、7月6日（土）から28（日）までの22日間、神宮球場をはじめとする、東西12の球場を使用し開催。東東京大会は、関東第一高等学校（3年ぶり8回目）が優勝。西東京大会は、國學院大學久我山高등학교（28年ぶり3回目）が優勝。両校が東西東京代表として甲子園出場の権利を得た。なお、関東第一高等学校は、甲子園にてベスト8まで勝ち上がり、国民体育大会の出場権を獲得。また、第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体硬式野球競技会にて優勝の成績を収めた。関東第一高校の功績を讃え、当連盟では、11月25日（月）に東京プリンスホテルにて学校長をはじめ責任教師・監督・選手を招いてお祝いの会を行った。

※今年度も99回大会から実施している準決勝・決勝に限りプレイガイド（チケットぴあ）によるチケット前売りを実施した。また、開会式に関しても、前売りを実施した。理由は、ここ数年、高校野球の人気拡大により、多くの観衆が球場に詰めかけている。特に、準決勝・決勝になると20,000人前後のお客様が早朝よりチケットを求めて長蛇の列をつくっている。明治神宮外苑、警備会社、管轄警察、消防とも協議し、安全上の問題を最優先に考え、8,000枚の前売りを行った。結果として、4割強のチケットが売れた。オンラインでのチケット販売には様々な問題点もあり、現にチケットの違法な転売行為も垣間見られ、対策を施す必要性を感じた。しかしながら、安全の側面からは、球場で問題になっていた狭い場所での列が解消され、余裕のある警備体制を整えることができた。今後も継続的かつ積極的に推進していく事業である。

③2019年度秋季東京都高等学校野球大会

一次予選は24の会場に分かれ、239チーム（連合チームがあるため）が参加。9月7日（土）～9月23日（月）で実施。64の代表校が10月14日（月）からの本大会に出場。本大会は10月14日（月）から11日間。決勝は11月10日（日）で、64校が神宮・神宮第二球場を含め9球場を使用し開催。なお、本年度は昨年同様に東都大学野球連盟と同日開催を実施。11月9日（土）10時より準決勝を2試合、11月10日（日）12時より決勝を神宮球場で行った。【両日とも東都大学野球一部二部入替戦は16時試合開始】また、準決勝・決勝においては、選手権大会同様、前売りによるチケットの販売も実施した。優勝校は国士舘高等学校（2年連続7回目）。準優勝は帝京高等学校。

※2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を一年後に控え、東京の高校野球の聖地である神宮第二球場が58年の歴史に幕をおろした。オリンピック開催に伴う施設使用と神宮外苑の再開発のためである。11月3日（日）

は神宮第二球場の最後を一目見ようと早朝より多くの高校野球ファンで長蛇の列となり、開門一時間五分で入場規制を行う大盛況であった。最終試合は、日大三 vs 帝京のカードとなり、東京の高校野球をリードしてきた学校同士の激闘であった。名将二人の戦いに高校野球ファンは魅了された。試合前には開催全日程終了の式典を行い、長きに亘る神宮第二球場関係者への御礼とファンへの感謝を当連盟会長ならびに専務理事が述べた。観衆からは惜しめない拍手が沸き、惜別の念はいつまでも球場にこだました。

(3) 高等学校野球の調査・研究

① 2019年11月30日(土)に高校野球指導歴3年未満の講習会を実施。約30名の若い指導者に高校野球指導者としての在り方、健全な野球部の運営などの講義を行った。(公財)日本高等学校野球連盟副会長・前審議委員長の西岡宏堂先生並びに智辯和歌山高校元監督高嶋仁氏をお招きして、高校野球指導者としての根本的な理念を講義頂いた。

② 2019年度の指導者研修会講師は岩間整形外科 理事長 岩間 徹 氏、東京慈恵医科大学整形外科 教授 スポーツウェルネスクリニック診療部長 舟崎 裕記 氏、日本大学医学部附属病院整形外科 洞口 敬 氏の3名の医師をお招きして講演をいただいた。高校野球での投手の球数制限も含めて、「スポーツ傷害」や肘・肩のコンディショニング・ケア方法など多岐にわたる充実した内容で加盟校指導者は深い感銘を受け、自校の今後の指導に大いに参考となる内容で実りある講演会であった。

(4) 高等学校野球選手、部員などのスポーツ障害予防・健康増進

本年度も医師の導入を行った。選手権大会の準決勝からは日本大学医学部附属病院整形外科洞口先生をはじめ、慈恵医科大学附属病院の田中先生と垣地先生にもお力添えを得て、試合中の熱中症、頭部打撲、その他のアクシデントを予測して球場でのサポートをお願いし、救急対応の危機管理を実践した。結果的に医師の診断を仰ぐ事故はなかった。また、準々決勝より理学療法士を球場内に常駐させ、選手のケアを行った。選手権大会には準決勝より、理学療法士の他に看護師もお願いし、選手のみならず、応援生徒の熱中症対策を行った。秋季大会においても、準決勝より医師と理学療法士に球場に常駐してもらった。生命に関わるような大きな事故もなく、選手の投球禁止などの適応者もなかった。選手・応援生徒の健康管理体制に関しては、引き続き学校と密に連絡をとり安全を第一に対応したい。また、センバツ・選手権に出場する代表校の肘・肩検査は、(公財)日本高等学校野球連盟が指定する病院で検査を行なった。東京都の検査指定病院は、帝京大学医学部附属病院整形外科、スポーツ医科学センターで今後も継続的に行われる。

(5) 高等学校野球に関する講習会・研究会の開催

学生審判の講習会を2月24日(日)に実施した。会場校の24校から2名の学生審判を参加させ、基本となるジャッジの講習を開催した。基本的に自校での経験がある参加者が複数いたため、高いレベルでの講習内容となった。次年度以降も継続的な取り組みを行いたい。

東京の登録審判員の講習会は3月3日(日)、6月16日(日)、9月1日(日)の3回を実施。審判員の技術向上のために積極的な参加があった。

記録員・アナウンス研修会は、6月22日(土)に実施。朝日新聞社の協力も得て、加盟校の代表校に丁寧に指導した。アナウンス研修は現役のアナウンサーが実技も踏まえて指導し、実践的なアナウンス指導を行い、非常に内容の濃いものとなった。指導者研修会は、岩間整形外科 理事長 岩間 徹 氏、東京慈恵医科大学整形外科 教授 スポーツウェルネスクリニック診療部長 舟崎裕記 氏、日本大学医学部附属病院整形外科 洞口 敬 氏をお招きして、「スポーツ傷害について」の貴重な講演をいただいた。高校野球200年構想の事業として野球人口の拡大を目的に当連盟では未就学児から小学校低学年までをターゲットとしてTボール教室を実施。加盟校のグラウンドを借りながら45校が開催した。子供たちがボールを打ちながら楽しそうにグラウンドを駆け回っている姿を見ると次世代の野球を担う子供たちに環境を提供することは必要不可欠であると実感した。

(6) 野球を通じた国際交流、国際相互理解の推進

本年度は国際交流試合はなし。U18ワールドカップにおいて東京都加盟校より選出される選手はいなかった。来年は東南アジア支援事業の一環として加盟校指導者の協力を得てインドネシア野球技術指導を実施したい。現時点では高校生の派遣はなし。指導者数名の派遣を検討している。インドネシアスポーツ省との懇談も含め、友好関係を保ち、長期的な展望でサポートを考えている。現地の安全面や衛生面など様々な関連機関への調整を推し進める。なお、派遣期間は、2020年12月20日前後から約一週間の予定。

(7) 高等学校野球に関する関係諸団体との協力・提携

東京都中体連、関東地区高野連、全国九地区高野連、並びに日本高野連とは密接な関係を持ちながら、各行事を遂行した。関東地区高野連とは、様々な意見交換を交わし、有意義な情報交換ができた。また、東京都中体連とも継続的な連携を維持して選手権大会の始球式も中学生に経験してもらっている。円滑な関係を保ちつつ諸団体と建設的な意見を交わし、さらなる関係構築に努めたい。

(8) その他この法人の目的達成に必要な事項

一般財団法人化に伴い、公認会計士指導の元、様々な規則の充実を図った。今後も適宜必要な事項への検討を行う。

硬式 273校 部員数約9,700名
軟式 73校 部員数約1,400名

硬式部

諸会議の状況

1、加盟校責任教師会議	5月26日(土)	1回
1、常務理事会	2月8日(金)、5月7日(火)、12月10日(火)、	3回
1、選手権運営委員会	5月29日(水)、6月4日(火)	2回
1、理事会	2月18日(月)、4月28日(日)、5月10日(金) 8月22日(木)、11月10日(日)、12月18日(水)	6回
1、選手権委員会	6月11日(火)、7月2日(火)	2回
1、抽選会	3月2日(土)、6月15日(土)、8月30日(金)、 10月7日(月)	4回
1、球場主任会議	2月18日(月)、6月11日(火)	2回
1、一次選会場校責任者会議	2月25日(月)、8月27日(火)	2回
1、審判講習会	2月24日(日)、3月3日(日)、6月16日(日)、 9月1日(日)	4回
1、審判幹事会	2月27日(水)、6月12日(水)、8月28日(水)	3回
1、評議員会	2月28日(木)	1回
1、監査	2月4日(月)	1回
1、開会式検討委員会	5月28日(火)	1回
1、記録員アナウンス研修会	6月22日(土)	1回
1、審判割当会	6月22日(土)、8月28日(水)	2回
1、審判員ブロック大会中間報告会	10月9日(水)	1回
1、Tボール野球委員会	4月27日(土)、8月14日(水)	2回
1、国民体育大会優勝報告会	11月25日(月)	1回
1、役員指名委員会	11月26日(火)	1回
1、指導歴3年未満指導者研修会	11月30日(土)	1回
1、指導者研修会	12月7日(土)	1回
	岩間整形外科 理事長 岩間 徹 氏	
	東京慈恵医科大学整形外科 教授 スポーツ	
	ウェルネスクリニック診療部長 舟崎 裕記 氏	
	日本大学付属病院整形外科 洞口 敬 氏	

軟式部

諸会議の状況

1、総会	4月7日(日)	1回
1、理事会	1月12日(土)、2月17日(日)、4月7日(日)、 5月3日(金)、6月16日(日)、7月31日(水)、 9月23日(月)	7回
1、審判講習会	3月21日(水)	1回
1、指導者講習会	2月16日(日)	1回

本連盟主催大会

春季大会

支部予選：3月下旬
都大会：4月14日(日)、21日(日)、29日(月)、
5月3日(金)、

夏季大会

7月20日(土)～31日(水)

秋季大会

支部予選：8月下旬
都大会：9月8日(日)、15日(日)、22日(日)、
23日(月)、

国民体育大会

9月28日(土)～10月2日(水)